第４回夏休み原爆展　開催報告（7/26・27）

１．開催日時・場所：
　　１）青森県民生協コスモス館　イートインコーナー
　　　　2025年7月25日（金）14時～17時/ 7月26日（土）10時～15時
　　２）青森県民生協青森市内店舗（コスモス館を除く10店舗）休憩コーナー等
　　　　2025年7月25日（金）～7月30日（水）
２．主催：青森県民生活協同組合・青森県生活協同組合連合会
３．後援：青森市教育委員会
４．協力：原水爆禁止青森県協議会・青森県原爆被害者の会
５．来場者数：※コスモス館会場　85名(25日30名、26日55名)
６．展示内容：①原爆パネル資料「原爆と人間」より30枚
　　　　　　②広島市基町高校の高校生が被爆者の証言を元に描いた原爆の絵より
　　　　　　　パネル判８枚　A4判　４枚
　　　　　　③ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ被災展示パネルより　18枚
　　　　　　④被爆体験証言ビデオ（県庁HP)、二重被爆者福井絹代さんの取材放送
７．概要：　原爆の恐ろしさ、被爆の実相を多くの方に知ってもらい、核兵器廃絶への想いを広げていく事を目的に、４回目となる「夏休み原爆展」を開催しました。

「戦後・被爆80年」の今年は展示スペースの広いコスモス館の他、青森市内10店舗で展示を行い、一人でも多くの方に被爆の実相をお伝えすることをめざしました。展示した「原爆の絵パネル」は、広島平和記念資料館より広島市立基町高校の生徒さんが被爆体験証言者と共同制作した絵のデータをパネルとしたもので、県内各地で活用されています。

県民生協チラシメールへの掲載、店舗でのポスターの掲示、コスモス館近隣の沖館小学校、篠田小学校の高学年へのチラシの配布、店内アナウンス等で呼びかけを行いました。

２日間でコスモス館の会場には合計85名の方が来場されました。店内でお買い物をされていて、立ち寄られた方も多く、若い方たちの来場もありました。広島の高校生が描いた絵を涙ぐみながらご覧になっていた女性の方から「こんなひどい状況だったということが、絵のもつ迫力から伝わってきます。高校生の方が描いたなんてすごい事です」との感想をいただきました。80年前、弟と二人でヒロシマとナガサキで被爆された福井絹代さん（青森市在住）の体験を伺い、聞いた人が語り部となって広げる活動を進めていますが、福井絹代さんご本人が会場においでいただき、高校生の描いた絵を見ながら、当時の被爆後のヒロシマや被爆された方々の様子をお話しくださいました。

東奥日報社、読売新聞社、赤旗新聞社より若手記者の方が取材に入り、熱心に展示物を見たり、参加された方に感想を聞き、記事にしていただきました。

青森県民生協コスモス館での原爆展会場の様子（７/25, ７/26）

「原爆と人間」「高校生が描いた被爆体験の絵」のパネルの解説文を真剣に読む参加者

高校生の絵を食い入るように観る小学生

福井絹代さんからお話を伺うあきもと店長

今回初めて、被爆体験証言ビデオと福井絹代さんの二重被ばく体験を取材した番組の DVD を放映し、真剣にご覧いただく方もいた。福井さんの証言活動は、昨年秋より、長崎放送、NHK 青森放送、広島テレビで放映され、大きな反響を呼んでいる。生協内での学習活動でも活用させていただき、多くの組合員が視聴している。

青森市内 10 店舗（コスモス館以外）での開催状況より（７/25～７/30）

【アカシア館】

【あやめ館】

【さくら館】

【あじさい館】

【つくだ店】

【新城店】

【ひまわり館】

【金沢店】

【八重田店】